

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	岡田工業株式会社		
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市南区塩屋町2-1		
工場等の名称	岡田工業株式会社		
工場等の所在地	名古屋市南区塩屋町2-1		
業種	製造業		
業務部門における 建築物の主たる用途	工場		
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)		
事業の概要	自動車及び船舶・産業用機械等の精密型鍛造		
計画期間	令和4年4月1日	～	令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

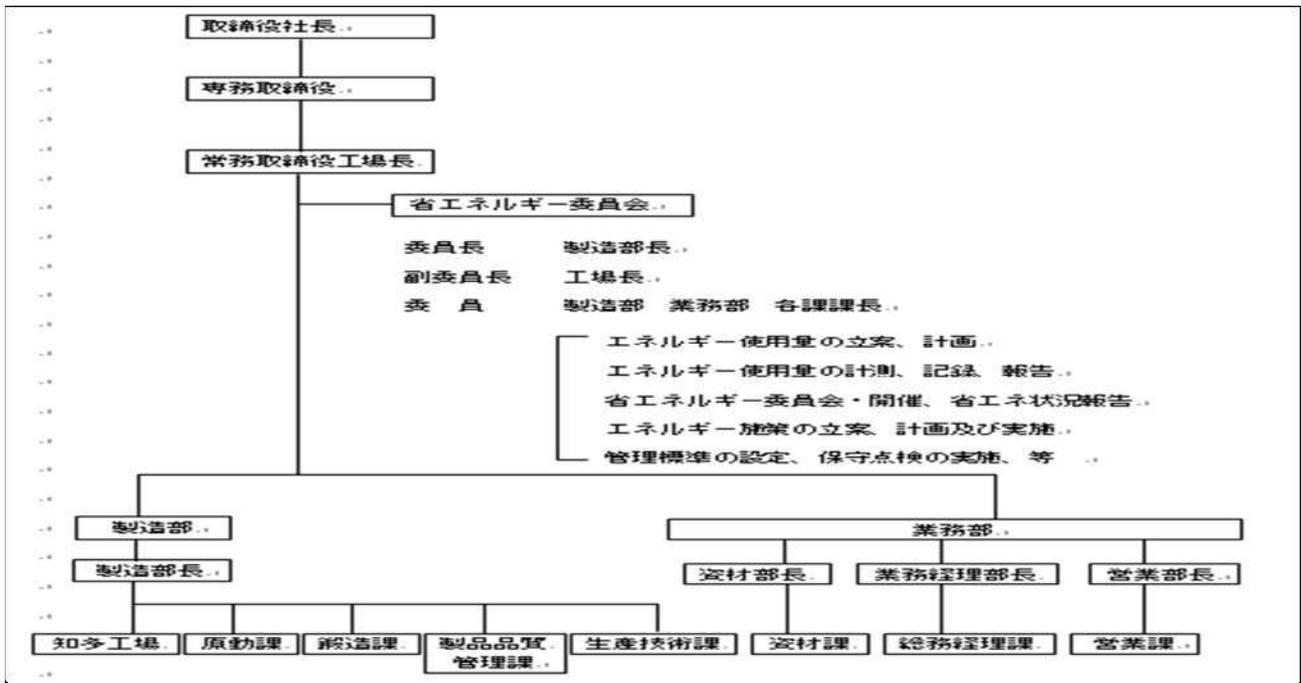
公表期間	令和5年10月12日			～	令和6年1月10日
公表方法	○	掲示 閲覧	(場所) 掲示板		
		ホーム ページ	(HPアドレス)		
		冊子	(冊子名・ 入手方法)		
		その他	(その他詳細)		
公表に係る問合せ先	murakami@okadakogyo.jp				

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

- 1、エネルギー、材料、資材、産業廃棄物のロスと削減しリサイクルを推進する。
 - 2、設備が環境に与える影響を認識し、設備の維持向上に努める。
 - 3、省エネルギー活動の推進
- 事業所で使用する電気、燃料等のエネルギー使用量を令和 6 年度までに、令和 3 年度比 3 %削減を目標とします。(原単位)

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,492	t-CO ₂
① 温室効果ガス 換算 排出量 (二室を除く)	②非エネルギー起源二酸化炭素 (③を除く。)		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素 (発電所等配分前)		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量 (①~⑩合計)		3,492

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量	3,199	t-CO ₂	3,103	t-CO ₂	3,492	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)			3.0	%	▲ 9.2	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量	0.2579	/ 1t	0.2502	/ 1t	0.2967	/ 1t		/ 1t		/ 1t
削減率 (対 基準年度)			3.0	%	▲ 15.0	%		%		%
原単位あたりのみなし排出量						/ 1t		/ 1t		/ 1t
削減率 (対 基準年度)						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価 (目標の達成/非達成の理由)

①エネルギー削減目標が法律に基づくものであることが定着していない。②月 1 回開催の省エネ委員会がただの報告会になってしまっている。③省エネに対する知識不足。④現状のエネルギー消費を掌握していないので、対策と結果を関連付けることができない。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
 備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー インダクション ヒーター	デマンド調査の実施 エアー漏れの定期的チェック 仕掛時と保温時の作業手順を標準化	1 台当り 5 ~ 8 %削減	
動力	クーリングタワーが休日に自動運転しない。 扇風機電源自動停止化	原単位 5 ~ 8 % 削減	
コンプレッサー	集塵機メンテナンスの定期的実施	原単位 1 0 %削減	
廃油の再生使用 含油、廃水の減 量化	油の再生使用 水分を製品の熱を利用し蒸発させ量を少なく する。		
廃棄物の排出抑 制	両面コピー、裏紙利用によりコピー用紙を削 減する。 分別回収の実施		
空調機・PC・ 事務機器の省エ ネ	空調機フィルター清掃（年 2 回） 空調機タ イマー設定 PC・事務機器の省エネモード 使用促進		

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--